

講義名	基礎能力（新聞を読む）		
科目区分	基礎能力		
担当教員	水田 聖一		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科/2020年度 人間社会学部 観光学科/2020年度 人間社会学部 人間社会学科/2020年度 経済学部 経済情報学科/2020年度 経済学部 経済学科/2020年度 商学部 マーケティング学科/2020年度 商学部 経営学科/2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース/2019年度 人		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>インターネットの普及など情報通信技術（ICT）の進展により、ニュースを知り、情報を得るための手段は、多岐にわたっている。しかし、そのような時代であっても、社会人として職務を遂行する上で、新聞を読み、それを業務に活用していくことの重要性は失われていない。</p> <p>本講は、社会人・企業人として、新聞が読め、理解できることの意義や業務との関連性に対する理解を促し、新聞を読むことへの興味を喚起することを通じて、新聞を読み、理解する上で求められる基礎的な能力を育成することを目的とする。</p>			

到達目標			
<p>① ニュースや情報を得る方法と、新聞というメディアの特徴を理解している。</p> <p>② 社会人・企業人として、最低限、把握し、理解しておくべきニュース（時事問題）の種類、社会人・企業人などの組織人としての生活や選択した学部・学科での学への関連性を理解している。</p> <p>③ 個々のニュースの基礎や背景にある、政治・経済・社会の仕組みなどに関する基本的な知識を身につけている。</p> <p>④ 新聞の一般的な記事を読み、理解することができる。</p>			

提出課題			
<p>提出課題については遠隔授業の実施に伴い見直します。</p> <p>本講では、新聞記事を素材にした読解演習に加え、各紙の読み比べ、記事を探す、記事を書く（疑似体験）、まわし読み新聞を作る、など多様な演習（個人のワークの他、ペアワーク、グループワークを活用）を通して新聞を読む力（読解力、問題発見力、分析力など）を身につける。これらの演習の過程で産み出された成果物の提出を求める。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>課題については、遠隔授業の実施に伴い見直します。</p> <p>提出された成果物については口頭や配布資料で講評・解説する。</p>			

評価の基準			
<p>評価の基準については遠隔授業の実施に伴い見直します。</p> <p>提出課題に対する個々の評価の積み上げによって評価する。</p> <p>合格最低ラインは絶対評価とし、上記の到達目標に照らして、この科目で習得すべきと考える最低限の内容すら習得しえていないと判断される場合は、出席日数にかかわらず不合格とする。また、5回以上欠席した場合も同様である。</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>「新聞を読む」力を身につけ、磨きをかけていくためには、何よりもまず、実際に新聞を読んでみることである。本講を履修することをきっかけにして、新聞やニュースに親しみ、「新聞を読む」ことを日々の習慣としてほしい。</p>			

教科書		
『新聞を読む』	流通科学大学	学内資料

プリント資料及び参考文献		
<p>本学オリジナルのテキストに加え、実際の新聞や新聞記事およびそれらを素材としたワークシートなどを配布・使用する。</p>		

授業計画		
<p>授業計画については遠隔授業の実施に伴い、見直します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人はなぜ「新聞を読む」必要があるのか</li> <li>2. 新聞の構成・新聞記者の構成</li> <li>3. 新聞はどうやって作られるのか</li> <li>4. ニュースを知る方法は新聞だけではないけれど</li> <li>5. 新聞からさまざまな生き方を知ろう</li> <li>6. 新聞からさまざまな仕事を知ろう</li> <li>7. 新聞から「商売」のしくみを知ろう</li> <li>8. 新聞から会社のしくみを知ろう</li> <li>9. 新聞から経済の動きを知ろう①</li> <li>10. 新聞から経済の動きを知ろう②</li> <li>11. 新聞から社会の動きを知ろう①</li> <li>12. 新聞から社会の動きを知ろう②</li> <li>13. 新聞から日本の動きを知ろう</li> <li>14. 新聞から世界の動きを知ろう</li> <li>15. まとめ-これからも新聞を読み続けるために</li> </ol>		

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
ウ：ディスカッション、ディベート	
エ：グループワーク	
オ：プレゼンテーション	
カ：実習、フィールドワーク	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>予習復習については遠隔授業の実施に伴い見直します。</p> <p>担当教員の指示に従って予習復習をすること。例えば、予習として、次回の授業のテーマに関するテキストの該当箇所を読んで、それに関連する新聞記事を見つけ読んでおく。復習として、宿題とされた課題に取り組んだり、授業で採り上げたテーマや新聞記事に関連した新聞記事を検索し、読み比べたりする。</p>	<p>授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	

実務経験の有無及び活用	
<p>この授業の担当教員の中には実務経験のある教員も多にいる。実務経験のある教員は、自身の経験に即して、新聞を読みそれを業務に活用していくことの重要性について伝える。</p>	

備考	
<p>担当する教員によって、取り上げる新聞や新聞記事は異なる。また、同じテーマでも、どのような視点からそのテーマにアプローチするかによって授業内容は変わる。このことは、新聞記事についても言える。同じニュースに関する記事であっても、各紙の記事はそれぞれに異なる。新入生の中には、このことに違和感を覚える人もいるかもしれないが、新聞記事に込められた情報から、受講生一人ひとりがどのような「知恵」を引き出すか、これこそがこの科目の大きな目的の一つだということを忘れていないでほしい。</p>	